

大阪府保育士会だより

平成19年8月1日

第76号

ほほえみ

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001

いっしょに あそぼうよ!!



人気の親子参加

平成17年4月に開園し、子育て支援事業を始めて2年目を迎えました。昨年は約40組の親子が園庭開放や親子教室に來られました。今年はその倍以上の約90組の親子が参加されています。

大半の方は、昨年來られた親から口伝えに広まっていったようです。これからも様々な活動を通して、地域に根ざした施設として役に立てるよう貢献していけたらいいなと思っています。

(東大阪市 たいよう保育園)



地域とともに ふれあい大切に



ちよっとひと息

心身の活力を養う



子育て支援センターとして今年で13年になります。毎週火、木曜日に、わんぱく教室(親子教室)を開催、園庭開放。毎週月、水、金曜日に育児相談事業実施。また、子育てサークルへの施設、設備の開放などを中心に、交流の場の提供、支援を行っています。

わんぱく教室では、0歳〜4歳までの子どもたちが参加して絵画制作、運動遊び、手遊び、紙芝居など年齢に応じて楽しんでいます。いろいろな活動を通して親子で心身ともにリフレッシュ、気軽に悩み事も相談でき、ちよっと一息ついて、また、子育てに頑張れる場でありたいと願っています。

(泉佐野市 すえひろ保育園)

子育て支援シリーズ⑩ 大阪狭山市 つぼみ保育園



他に、市保健センターと共催で、4ヵ月検診を受けた第1子を対象に「子育て教室」を開催しています。園で実際に抱っこやあやし方などの子育てのアドバイスをしたり、簡単なおもちゃ作りや手遊び等をお母さんと楽しんでいます。

他にも、市保健センターと共催で、4ヵ月検診を受けた第1子を対象に「子育て教室」を開催しています。園で実際に抱っこやあやし方などの子育てのアドバイスをしたり、簡単なおもちゃ作りや手遊び等をお母さんと楽しんでいます。

り、日常生活では味わえない遊びを体験します。お母さん方には、子どもたちと接する保育士の姿を見て、子育ての参考にしたいだけければと考えています。

参加者を地域別に分け、希薄になりがちな近所づきあいや、仲間作りができるようタイムの時間を設け、お母さん方の情報交換の場を提供しています。

この時間は、お母さん方も目を輝かせておしゃべりに花を咲かせて喜ばれています。

園庭開放では継続的に來園される方も少なくなく、子どもたちの遊んでいる様子を見ながらお母さん同士のコミュニケーションの場として活用されています。

また、保育士に育児相談をされる方もあり、ちよっとした悩みなら解決できているようです。保育園とのつながりが少しでもできると、緊急一時保育をお願いに來れることもあり、困った時に相談できる場でありたいと思っています。



保育体験や育児相談も 地域のようじゆんも



平成14年に開園。地域のなかの保育園を目指して、「つぼみキッズ」「毎週土曜日の園庭開放」「出前保育」等の子育て支援活動を行っています。

「つぼみキッズ」は、0歳児から3歳児の親子20組を対象に、5ヵ月間、月2回の保育体験です。子どもたちは同年齢のクラスに入

る。この時間は、お母さん方も目を輝かせておしゃべりに花を咲かせて喜ばれています。

園庭開放では継続的に來園される方も少なくなく、子どもたちの遊んでいる様子を見ながらお母さん同士のコミュニケーションの場として活用されています。

また、保育士に育児相談をされる方もあり、ちよっとした悩みなら解決できているようです。保育園とのつながりが少しでもできると、緊急一時保育をお願いに來れることもあり、困った時に相談できる場でありたいと思っています。

近畿ブロック保育研究集会

～すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して～



第2分科会

保育園は地域の集いの場

近畿ブロック保育研究集会が、7月12、13日、ホテルニューオータニ大阪で行われ、全体会と6つの分科会が行われました。

開会式のあと、厚生労働省から「保育の動向と課題について」の講義がありました。

その後、分科会に分かれての研究発表に、多数の参加者が熱心に耳を傾けました。

大阪府保育士会からは、守口市錦保育園、田中旬子さんが第2分科会で「子育てライフを支援する」をテーマに「子育て支援の拠点としての機能の充実」について発題されました。

熱心に発題する
田中旬子さん



「保育所ができること、保育所がすべきこと」について①子育て支援の機能を充実させるために、職員の意識統一を図る②子育て支援に対する職員の資質向上を図る③地域から見て保育所が身近な存在であること、この3つを職員全体で定期的に話し合っていると報告されました。

少子化が深刻に影響している現代社会では、子どもが健全に育つ環境が奪われている現状があり、親もまた、子育てがしにくい状況になっています。子育てライフをどのような支援するかが大きな課題です。保育士は、専門性を

和歌山県から「過疎地での保育」について発題があり、陽子教授からコメントをい

いただきました。子育て支援で大切なのは、親が子どもと向き合う関係をどうつくっていくかということ。今の育児は「子どもを眺める育児」になっており、子どもと一緒に親子

ユーモアをまじえて
中部学院大学
寺見陽子教授

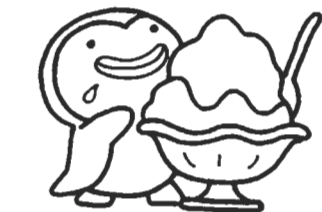


ではない。率先して子どもの気もちを揺さぶることが苦手な親が増えてくる。親の気もちが子どもに移る。子どもが楽しめないのは親が楽しんでいないから。親子のかかわりの質を高めることが必要。親子が互いに伝えあえる関係、同じ目線になれる関係作りを、保育士が専門家として支援していくことが大切な役割である。

子どもの育ちを保障する」▽第3分科会「多様な連携と協働をつくる」▽第4分科会「子育て文化を育む」▽第5分科会「子育て・子育てを支援する仕組みを作る」▽第6分科会「保育協議会の組織を強化する」のテーマに沿ってそれぞれ発題、

討議が行われました。

2日目の記念講演は、現在お茶の水女子大学教授、榎原洋一先生をお招きして「子どもの発達、その不思議さ素晴らしさ」をテーマに講演をいただきました。



子どもは無力で受け身のか細い存在ではなく、積極的に周囲の情報を収集する能力を蓄えた存在である。物的、人的環境を整えてあげることで子どもの能力の発揮をうながすことができるとの内容でした。





講演される小川教授

保育士の学びのシリーズ⑦ 食育の取組みを点検しよう!

名古屋短期大学保育科
小川雄二 教授

近年、保育園での食育の取組みが旺盛に行なわれるようになりました。改定が予定されている保育所保育指針にも「食育の推進」が盛り込まれる見込であり、今後さらに取組みが広がっていくことでしょう。もちろん、そのことは、たいへん望ましいことではあります。一方、何らかの食に関する取組みをするだけでよいのかという迷いも生じているのではないのでしょうか。そこで、あなたの園の食育の取組みについて、点検してみましょう。

- めざす子ども像、目標・計画に関して
- ①食育でめざす子ども像・目標は明確になっていますか。
- ②食育計画はありますか。保育計画に食育が位置づいていますか。
- ③食育の取組みの評価がされていますか。
- 職員体制について
- ①食育に取組むことの必要性が、全職員で共有されていますか。
- ②職員の連携、特に保育者と給食担当者の連携ができていますか。
- ③子どもの食についての発達や理論、食育の目標など



子どもの感性を見逃さないで 専門職の誇りをもとう

中堅保育士研修会(写真下)が6月14日(日)、大阪府社会福祉会館で行われまし

食育についての学習が行われていますか。

●家庭・地域との連携に関して

①家庭と連携することを重視した食育の取組みをしていますか。

②食育の取組みを通して地域と連携していますか。

多くの食育の取組みをしていますが、それだけでは十分ではないことがわかりたいですか。

求められているのは、食に関する子ども・家庭の姿から「食育の取組みの必要性」を全職員が共有し「めざす子ども像・目標」を明確にして、そのための道筋を理論的に押さえた上で、具体的な働きかけや教材を配置する、計画的・系統的な「食育」です。そして、職員が連携して、家庭や地域とも双方向で連携しながらすすめる食育です。このようにすすめることができれば、保育園での食育は飛躍的に成果をあげるはず

た(参加者194名)。また、泉州ブロック常任委員による可愛い「三匹のこぶ



た」の手あそびで会場が和んだ後、講師の野寛治先生(大阪大谷大学教授)(写真上)が「子ども一人ひとりが大切にする保育」不適切な対応を起こさないために「」をテーマに講演されました。

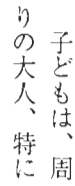
農野先生は、最近子どもの人権が侵害される事件が増えている現状の危機を訴えられ、子どもの人権を守る「子どもの権利条約」を基本に、保育指針や全国保育士会倫理綱領に謳われている「一人ひとりの子どもを心から尊重し…」という言葉の重みにつ

平成19年度 中堅保育士研修会

「不適切」かという判断も変わってくる。子どもはどんな環境で育ってきたのか、子どもにとってよい「環境」に調整する力量も求められている。

子どもへの対応の判断にはいろいろな物差しがある。社会の文化や「行為者の動機」によって何が「不適切」かという判断も変わってくる。子どもはどんな環境で育ってきたのか、子どもにとってよい「環境」に調整する力量も求められている。

子どもへの対応の判断にはいろいろな物差しがある。社会の文化や「行為者の動機」によって何が「不適切」かという判断も変わってくる。子どもはどんな環境で育ってきたのか、子どもにとってよい「環境」に調整する力量も求められている。



子どもは、周りの大人、特に

たのしい保育活動

—子どもぐもんの腕前披露—

♪ 手打ちうどん・串焼き・豚汁

毎月11月に年長児とその保護者の参加で「子どもカーニバル」を行っています。当園は29年間モンテッソリ教育を実施、幼児組は4クラスあり3〜5歳の縦割り保育を行っています。

製造から販売まで「宣伝金」の代わりに、親子で交換チケットも作ります。

さて、「行列のできるお店屋さん」の開始です。保護者の方にも手伝っていた

だき腕に覚えの得意料理を（特に口出し手出しにならないよう）準備していきま

す。どの子どももレシビが頭の中に入っていて、お母

さんたちに教えてあげたり、保護者の方もグループの子

どもさんを手伝ったりと大興奮です。

完成すると、手打ちうどん・具沢山の炊き込みご飯・串焼き・豚汁・ポテトサラダ・手作りきなこの白玉・抹茶・南京

だんご・お好み焼き・スイートポテトの店開きです。

交換チケットは点数制で、自分とお母さんの欲しいものを選ぶのも楽しいものひとつです。お店屋さ

ら、お客さんを経験し、土曜日の半日を楽しんでいます。

（ちとせ保育園 中尾 恵子）



親子で「子どもカーニバル」

完成すると、手打ちうどん・具沢山の炊き込みご飯・串焼き・豚汁・ポテトサラダ・手作りきなこの白玉・抹茶・南京だんご・お好み焼き・スイートポテトの店開きです。

親子で「子どもカーニバル」

完成すると、手打ちうどん・具沢山の炊き込みご飯・串焼き・豚汁・ポテトサラダ・手作りきなこの白玉・抹茶・南京だんご・お好み焼き・スイートポテトの店開きです。

保育あんな工夫 こんな工夫

子どもの育ちドキュメント



園に、子どもの生活のようすや成長がわかる記録があれば、保護者や私たち保育者にとつてどんなに意味深いかと思われました。

そこで、昨年度から写真と文章などでわかりやすく記録したものをファイルにし、いつでも保護者に見ていただけるようにしてみました。

年齢ごとにデジタルカメラを用意しました。子どもたちの一日の生活のようすや夢中になっているようす、

園に、子どもの生活のようすや成長がわかる記録があれば、保護者や私たち保育者にとつてどんなに意味深いかと思われました。

そこで、昨年度から写真と文章などでわかりやすく記録したものをファイルにし、いつでも保護者に見ていただけるようにしてみました。

年齢ごとにデジタルカメラを用意しました。子どもたちの一日の生活のようすや夢中になっているようす、

食事風景などを撮ります。データはしっかり管理して保存します。その中から一人ひとりの写真をコピーして、用意しておいた台紙に貼り、保育者のコメントを書き入れます。それをクリアファイルに綴じていきます。かわいらしい子どもの作品や足型も一緒に綴じると一層ボリュームのある素敵なお知らせになることでしょう。



大きい子どもは春夏秋冬のペースで作成しています。年齢ごとに見やすいように工夫していますが、特にベビールーム担当のスタッフは、成長のようすをわかりやすくお知らせできるように項目別に分けていきます。

大きい子どもは春夏秋冬のペースで作成しています。年齢ごとに見やすいように工夫していますが、特にベビールーム担当のスタッフは、成長のようすをわかりやすくお知らせできるように項目別に分けていきます。

ファイルのタイトル書きの部分には子どもの顔写真と名前を貼っていますので保護者は我が子のファイルをすぐに取り出せます。

これらのドキュメントは入園してから卒園するまで作成し、卒園の時に子どもと保護者にプレゼントします。

この子どもドキュメントを保護者に見ていただき「家庭では忙しくてアルバ

まぶしい夏の光をいっぱい浴び、水あそびを楽しむ子どもたちの姿が、私たちの心をなごませてくれます。私たちも子どもたちに負けないよう、夏を楽しみたいものです。

さて、平成18年3月、食育推進基本計画が作成され「保育園における食育のすすめ方」についても計画等を進めておられることと思

て安心できる」などのご意見をいただいています。

私たちもドキュメントを作ることによって子ども一人ひとりを見つめることができます。それをもとにして保護者と有意義な会話が、できると思います。

（東百舌鳥保育園 中辻 祥代）

まぶしい夏の光をいっぱい浴び、水あそびを楽しむ子どもたちの姿が、私たちの心をなごませてくれます。私たちも子どもたちに負けないよう、夏を楽しみたいものです。

さて、平成18年3月、食育推進基本計画が作成され「保育園における食育のすすめ方」についても計画等を進めておられることと思



平成18年度 大阪府保育士会常任委員一同